

再生医療実現拠点ネットワークプログラム
疾患特異的 iPS 細胞の利活用促進・難病研究加速プログラム
研究開発課題評価（令和 5 年度実施）
事後評価結果

研究開発課題名	疾患特異的 iPS 細胞バンク事業
代表機関名	国立研究開発法人理化学研究所
研究開発代表者名	中村幸夫

1. 総合評価

良い

【評価コメント】

年間 100 株の当初目標に対して、3 年で 307 株を即時提供可能な状態に整備した点は評価できる。細胞に付随する情報の整理・管理、及びバンクの利用拡大のための細胞付随情報の公開・検索システムの改善を着実に実施した点も評価できる。本研究課題で得た成果は、患者由来 iPS 細胞をプラットフォームとする疾患研究を可能とするものであり、今後様々な病態の再現、さらには病態の解析に繋がる事を期待する。提供数については、掲げた達成目標を若干ではあるが達成できなかった点もあった。今後の課題として、企業の利用者をさらに増やすための方策も含めて考えてほしい。